甘楽町広報

臨時号

昭和41年12月26日発行　臨時号

発行所　群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡甲852
甘楽町役場
電話（小幡）4番・44番・49番
編集　総務課企画文書係
印刷所　坂本印刷株式会社
1部　金3円

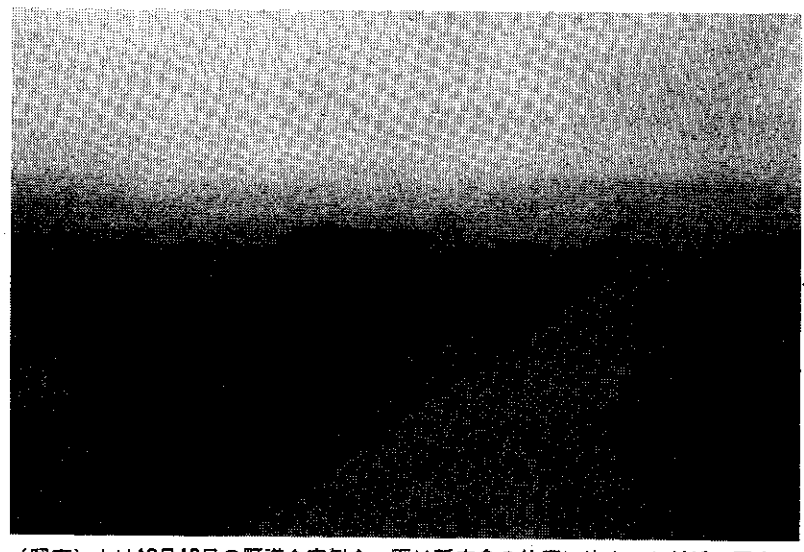
新庁舎の位置決定

小幡、甲一六一番地に

議会三分の二以上が賛成

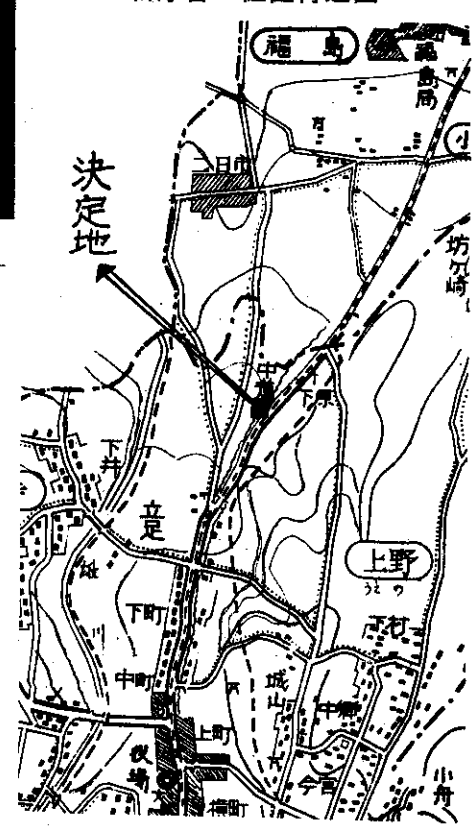
十二月十三日に招集された第五回町議会の定例会は、会期を十日と定めたが、全議案を可決して二十一日閉会しました。

特にこの町議会において、合併以後の懸案の大事業でありました「新庁舎の位置」が正式に決定されました。



（写真）上は12月13日の町議会定例会　下は新庁舎の位置に決まつた付近の写真

新庁舎の位置付近図



敷地は七千二百平方メートル

新しい役場の位置は、大字小幡甲一六一番地に決まりました。その広さは七千二百八十二・六四平方メートル（二千二百三坪）の予定です。

この新庁舎の位置については、十二月の広報でおしらせしましたように、十一月の町議会の話し合いでほぼ決まり町長と町長から委嘱された役場敷地交渉委員が、土地所有者と譲り受けの話し合いがすすめられ「承諾書」が得られたので、十二月十三日の定例会に「議員提案」として上程され審議されました。

その結果、採決は投票によってなされ、賛成十八票、反対六票で、議決に必要な三分の二以上の賛成が得られました。

この地は、大字福島と大字小幡の境界から浅田精粉工場までのちょうど中間地点で、決定した場所は全部小幡地内です。この場所は県道に面し町内を見通せ、西は富岡市から郡下の各町村と妙義、荒船浅間・上信越連峰を遠望する絶景地で、しかも、周辺は桑園が多く、将来発展の余地がじゅうぶんあるわけです。

決定までに八カ年の歳月

新庁舎の建設問題は、当町の合併基本協定書により、新町発足後これを決定するとされており、この八年間、そのために百数十回にわたる会議が開催されてきました。

位置決定の基本原則としては、①、敷地は当初六千六百十一・五七平方メートル（二千坪）ぐらい獲得し、将来、さらに拡張できるところ。②下高尾小幡線の沿線で、中央公民館付近から鏑倉街道までの間。③、将来、文化、経済交通環境などがよく、町の発展と町内行政上、また中央との交流上効果があがるところ。などがあげられ、それにそって位置選定の話し合いが進められました。そして特別委員会を設置して話し合いましたが意見の一致が見られず、再び議員協議会で話し合われました。

そして、ことしの十月十三日の協議会で「十一月中に新しい庁舎の位置を決めよう」と申し合わせができ、さらに十一月五日の協議会では、新庁舎の位置は、浅田精粉から小幡と福島の境界線までの四百五十メートルの範囲にせばめられました。

しかし、小幡の宝泉寺付近を主張する人と、福島の石井互分店付近を主張する人が相半して譲らず、ついに織田沢議長は、約三分の二が賛成している両者の中心地点にしぼる提案を示し、急速に話し合いが進み、敷地交渉委員会が設置され、こんどの決定となったものです。

全町民の協力を

当町発足以後の懸案だった新庁舎の位置はついに決定されました。八年間の歳月と多くの人たちの精力的な努力によって見い出された「新庁舎の位置の決定」こそ、さらに当町の飛躍を期するよい機会であります。

住民のセンターとしての庁舎の建設が一日も早く完成するよう、全町民のみなさんのご協力をお願いします。

庁舎は早期に建てたい

住民とは話し合いで理解求む

町長　飯塚勝久

過去八年間にわたって町議会で審議され続けた役場の位置が、十三日の町議会で変更されることになりました。この間の議員さんのご労苦は、なみなみならぬものがあったろうと推察し感謝と敬意を申し上げます

決定したからには、町長といたしまして、早く役場庁舎ができるよう努力します。

しかし、小幡、秋畑地区の住民から、庁舎を建てる前に「し尿処理場」とか「体育館の建設」「道路の整備」などをしてほしいと嘆願書が出されていますので住民との話し合いの機会をもって、事情をよく理解してもらわねばならぬと思っています。

ただ、現在の役場はひじょうに狭く、みなさんもよくご存知のように、学校の校舎まで使っている状態です。それでもなお狭く、書類を置くところも、通路も満足にとれず、事務処理に不便し、能率はさがっていますし、また、住民のみなさんに対するサービス等にも欠けますので、庁舎を早期に建てなければ困るのは事実です。

したがって、住民のご要望もよく聞いて、総合的に住民福祉の増進に努めたいと考えます。どうか、みなさんのご協力をお願い申し上げます。

一刻も早く新庁舎の建築を

議長　織田沢昌美

甘楽町発足以来の懸案でありました役場庁舎の位置が、十二月十三日の本町議会定例会の本会議で決定しました。

甘楽町合併基本協定書に「新庁舎建設の位置は、新町発足後これを決定する」ということが示されてあります。これは、先輩諸兄の決定されたものでありまして、以来八星霜の長い年月を経て、ようやくここに決定をみたわけであります。

これもひとえに住民のみなさんのたゆまざるご助力とご指導の賜でありまして、この機会に厚くお礼申し上げます。

いまさら申し上げるまでもなく、庁舎の位置が決定したことは、真に住民のセンターができることであり、これによって今まで以上に甘楽町態勢の上に立った町政が執行されることが期待され、甘楽町百年千年の大万歳をとなえたい気持であります。

これから庁舎建築の段階に入るわけですが、町長は庁舎の完成が一日も早ければ、町の完成が一日早いということをよくご認識くださいまして、一刻もすみやかに庁舎建築にとりかかっていただきたいことを、強く要望いたしますとともに住民のみなさんには町に対して、今まで以上のご支援をお願いし、大甘楽町にふさわしい庁舎の完成をともによろこびたいと念願しております。

二十四地区で作業隊を慰問

十二月十四日に二十四区（小柏丑五郎区長）の代表者二十二名は、タバコ、肉、ねぎ、牛乳など、二十四地区のみなさんで負担しあったおみやげをもって、自衛隊の作業隊寄宿舎を慰問しました。

一行は当日作業現場を見学したあと、寄宿舎の上野公民館に着き、さっそく慰問品を差し出しました。

これに対して、橋本作業隊長からお礼のことばがあり、「工事の状況」や「自衛隊の生活」などについて説明をうけました。

完工

引田～天引間

十一月二十九日に自衛隊の手によつて作業がはじまった引田～天引間の町道改修工事は、ひじょうに急ピッチですすみ予定より早く十二月二十六日には、しゅん工式が行なわれます。

この工事は、前回の工事と同じく、起伏のはげしい山間部で、きりひらいたり、うめたりする土の量もたいへんなもので、その数は、トラックに約七千九百台にもなるそうです。

さらに頂上付近では約八メートルにわたって山がきりくずされましたが、自衛隊の強力な機械力で、このようなむずかしい工事も、スイスイとはかどり、まったくすばらしい威力を示しました。

写真はその工事